



4月から新たな生活をおくる皆さんへ

附属教職高度化センター
客員教授 越中谷俊悦

昨年度まで私は公立学校で勤務していました。院生の皆さんには、学校勤務だった立場からのメッセージを贈りたいと思います。

初めは、カリキュラム・授業開発1年次と発達教育・特別支援教育1年次の皆さんにです。昨日1月25日(火)、教職大学院事前発表会がありましたが、その際、阿部教授、原教授から次のご助言がありました。

- ・理論と実践の往還を。
- ・鋭く分かり易い、納得感のある理論を。
- ・批判的思考の重視を。
- ・研究としての「締まり、深まり、まとまり」を。
- ・研究方法上の意義、実践研究上の意義を。
- ・次の人が参考にできる論文に。
- ・緻密な、隙のない論文に。

学校現場では、『初任者研修実施の手引』(秋田県教育委員会)にあるとおり、「実践的指導力」「使命感」の習得・醸成が必須であることから、今後もこれらの資質・能力につながる方向で大学院での実践研究を進めることが求められると考えます。

次に、カリキュラム・授業開発2年次3年次の皆さんには、「使命感」はもちろんのこと、『秋田県教職キャリア指標』(秋田県教育委員会)にある第1ステージの「教科等指導力」「生徒指導力」「マネジメント能力」を確実に身に付け、そして、即戦力としての「フットワークよく働く頭脳と身体」をもって新生活を送っていただきたいと考え

ます。4月も新型コロナの感染が心配される状況下だとしたら「危機管理能力」も重要となります。

最後は、学校マネジメントコースの皆さんにです。皆さんは今後学校管理職等を務める方も多くいらっしゃると思います。教頭職や指導主事などの職に就かれた際は、「助言力」(越中谷の造語)、「危機管理能力」は最低でも持ち合わせておく必要があります。「教頭職は、学校の誰よりも早くから、そして誰よりも遅くまで」仕事をしなければなりません。もちろん、精神的にも打たれ強く、しなやかでなければ務まりません。ですから、「教頭職は、学校の誰よりもフットワークよく、危機管理のアンテナは高く、職員室内では四方八方からの『報連相』に素早く適切な助言をすること」が求められます。しかし、忙しく大変な教頭職や充て指導主事の職も、全ては、児童生徒、教職員、各学校、地域、教育委員会職員等の幸福につながる職務であり、やりがいがとても大きい職務です。教頭職も充て指導主事の職も、仕事をする上での基本には信頼関係の構築が必要となります。そしてその礎は「会話・声掛け」です。ですから、恐れずに、「会話」を重視した仕事ぶりをこれからも継続させましょう。もちろん、「汝(教頭職等)、何のためにそこに在りや」の自問自答は常に行いながら、です。

私たちセンター職員は、院生の皆さんのことをいつも応援しています。不安なことなどがありましたら、いつでも相談してください。

新たな学びと出会い

附属教職高度化センター
客員教授 今田智範

公立小・中学校を定年退職し、2年目となりました。1年目は秋田市教育委員会に勤務し、今年度は秋田大学の勤務です。平日に1日休日が増えたことにより、これまでの仕事と比べて時間的な余裕が増えたこともあり、出不精だった私の生活や行動も変化しました。

大きく変わったことの一つに、町内会の会計を担当したことです。窓口が開いているときに銀行に行くことなどほとんどありませんでしたので、銀行内の様変わりした姿は新鮮でした。窓口業務は縮小され、ATMが幅を利かせていました。キャッシュレス時代を実感した瞬間でした。カード決済は日常的に行っていましたが、今までなかなか手を出せなかったコード決済の利用も考え始めました。私のスマホもようやく電話やメールだけでなく機能を広げそうです。町内の方々との交流も、新たな知識や興味・関心を広げるものでした。

また、これまでは購買目的のない時の店舗への出入りはほとんどありませんでしたが、ぶらっと店に寄ることが増えました。特に百均に好んで行

くようになりました。これまでは、百均に対してあまり良いイメージをもっていませんでした。それは、前職の時に見た子どもたちの持ち物が理由でした。子どもたちにとって百均は、自分のお小遣いで買える物がたくさんあるお店で、魅力的な場所だと思います。学校へ持ってくる物にも百均で購入したと思われる物がたくさんありました。その中で問題だったのは、書写で使う筆と紙でした。「弘法筆を選ばず」と言われますが、百均の筆では正しく整った文字や勢いのある文字を書くことは難しいと思いました。また、紙も墨を含むと破れ、書いた文字も滲んだりかすれたりします。書写に対する興味・関心が薄れ、うまく書けない子どもは書写の筆を絵筆のように使い、塗り絵で文字を整形するのです。こんなことがあり足を遠ざけていましたが、その商品の種類やアイデア、百円に抑える技術力に感心させられ、目的もなく店内を歩き回っています。

日々、新たな学びや出会いの毎日です。

「学校学級経営の現状と課題」を受講して

学校マネジメントコース
現職院生1年次 近野祥子

本講座は、タイトルにあるとおり、学校学級経営の現状と課題について現職教員とストレートマスターが協議を重ねながら、よりよい方向を見いだしていくという授業である。講座内容は大変バラエティーに富んでおり、学級づくりで実績ある教員の実録VTRを視聴したり、学校・学級経営の理論と歴史について学んだり、心理学的な視点からの「関係づくり」や事務職員との関わりについてその道の専門家の話を聞いたり、現場では得ることのできない貴重な知識と内容について学ぶ

ことができた。また、実際に学校を訪問して生の学校の姿を体感したことや、学校課題を協議して戦略マップを作成するという実践も、大変有意義だったと感じている。ストレートマスターにとっては、本格的に教育に携わる前の段階でその道の「プロ」の話を聞き、優れた実践に触れる貴重な機会であり、今後の教員人生によい影響を与えるのではないだろうか。

思い返してみれば、自分は大学卒業後、1年間の臨時講師経験を経て教員として採用になったが、

臨時講師として働いた1年間の経験と環境が、後々の教員生活に大きな影響を与えたと感じている。やる気も体力もある若いうちに優れた実践を見聞きすることは、間違いなく価値ある経験であろう。また、採用以来、ひたすら目の前の問題や課題と向き合い、その解決に精力を傾けてきた現職教員にとっては、いったん立ち止まって自身の実践を振り返り、価値付けるとともに、これからのすべきことや果たす役割を考える貴重な機会にな

ったと思う。

時代の移り変わりとともに、学校のあり方や求められるものも変わってきたが、人との出会いや学びによって人生が形づくられていくということを考えれば、学校が果たす役割と責任は、今も昔も極めて大きい。どんな子どもにも変わるきっかけとチャンスがある。教員が、教室が、学校が、その後押し役となれば幸いであるし、そのヒントを与えてくれる授業だった。

研修旅行2日目について

学校マネジメントコース
現職院生1年次 工藤智史

私は能代山本地区の学校に勤務経験があり、八峰町は何度も訪れていた場所だ。名産のラベンダー、そば、新鮮な魚介、そして日本海と世界遺産の白神山地に囲まれた自然豊かな町、という印象であったが、このフィールドワークを通じて「知っていたつもり」であった、ということを知った。八峰町には地球の歴史そのものが詰まっていた。地殻変動が起き、日本が形成されるその時の記憶が断層や岩石に残され、それが今、目の前にある。数百万、数千万年前の遠い過去の記憶に思いを馳せる。白神山地にあるニッ森は、約三千万年前にマグマが冷え固まってできた花こう閃緑岩の山だ。どれだけの大噴火があったのだろう。白神山地はいまだに毎年1.3mm隆起している。どれだけの圧力がかかっているのであろう。地球の力強さに圧倒される。白神山地は雨等で柔らかい岩が削られ固い岩が残ったことで、山は高く谷が深い。そのため、ブナが伐採されず、広範囲にわたって原生林が残っている。ブナの原生林が世界自然遺産になったのは、偶然ではなく地球の大きな動

きが関わっていた。地球のダイナミックな躍動が、今も八峰町に息づいている。

また、八峰町は果樹の生産が盛んでおいしいお酒がある。それは、米代川や海流、風の働きで砂地が形成され、湧き水が出ることにそのルーツがある。そのルーツを知ること、また美味しさが倍増する。感銘したことや新たに知ったことは誰かに伝えたくなり、おいしいお酒を酌み交わし、話に花が咲く。

今回のフィールドワークでは地形の成り立ちとその土地の産業が密接に関係していること、そして、その土地を理解するにはその土地の成り立ちや歴史を知ることが大切であることを学んだ。その視点で改めて地域を見直すことで、今まで気づかなかったその地域の良さや、今あるものの新たな価値付けができる。地域の良さを再発見し、ふるさとに愛着をもち続けられる学習を展開するための新たな視点を学ぶことができ、とても有意義なフィールドワークであった。



八峰白神ジオパークでの研修の様子



ブラックサンドビーチでの研修の様子



鹿の浦展望所での様子



白瀑神社での記念写真

インターンシップ実習を終えて

カリキュラム授業開発コース
学部卒院生2年次 三保 翔

五月から始まったインターンシップ実習を終えて、学校現場でのイメージを強くもつことができたというのがかなり大きな経験になったと感じている。その中でも特に印象に残っていることを2つ挙げて述べたいと思う。

1つ目は、様々な児童への対応である。インターンシップ実習では、4年生に配属されたが、落ち着かない場面が何度か見られた。特に目立つ児童の実態として、授業中に後ろを向いて話してしまう児童・授業のノートを取らない児童・教師の言ったことに対しすべて反抗してしまう児童がいる状態であった。担任がどのように対応しているのかを見ていたが、かなり工夫しているようであった。クラスのルールとして、「集中できなくなったら廊下に出る」「イライラしたら廊下に出る」というようなルールを設けたり、算数の時間に穴埋め式のある程度完成されたノートを作成して児童に配付したり、担任を入れ替えて授業を行ったりと多くの対策をしていた。対策をした数日は児童

も普段に比べ落ち着いてはいたが、長く続けるのは難しいと感じた。有効な取り組みも継続することができないと児童に習慣化させることにつながらないため、教師の仕事との両立を図りながら計画的に行っていくことが必要だと感じた。

2つ目は、いくつかの学校行事に参加することができたことである。運動会・マラソン大会・記念式典・就学時健診に参加することができた。特に運動会・マラソン大会では、体育主任がどのような仕事をしているのかということを知ることができた。私は体育専攻ということもあり、現場に出るからのイメージにつながった。学校行事を運営する側でも参加は初めてだったため学校現場に出る前に経験できたことがかなり大きな経験になったといえる。

今回のインターンシップでは、より教師に近い位置で実習を行うことができた。4月から実際に教師として教壇に立つことになるので今回のインターンシップで学んだことを生かしていきたい。

インターンシップ実習Ⅰを終えて

カリキュラム・授業開発コース
学部卒院生1年次 佐々木健真

学部卒院生1年次の受講科目である「教職実践インターンシップⅠ」では、5～7月にかけては附属4校園で各2日の実習(前期実習)を、9月からは4校園の中から希望する校種を選択して計10日間の実習(後期実習)を行いました。

前期実習は、現職院生も交えての参観や講話、演習、協議等を通して、異校種の特色や取り組みについて理解できた貴重な機会になりました。特に幼稚園や特別支援学校は、学部生時代の教育実習で私が経験していない校種であったため、新鮮な気持ちで子どもと接し、学ぶことができました。

後期実習では、私は4校種の中で附属中学校を選択しました。学部生時代の教育実習と比べると、授業以外の教員の様々な実務を多く経験でき、指導教員の日々の教育活動に携わることを通して教員の仕事への理解を深めることができました。それらに取り組む中で、教員としての責任感や使命感をより高められたように思います。

授業実践については、指導教員と毎回の授業についての振り返りを欠かさず、回を重ねるごとに徐々に改善していくことができました。また、実践研究と関連して、デジタル教科書やタブレット

PC を活用した授業実践を重ね、授業での ICT 活用についての視野を広げられたと感じています。

実習を終えるたびに大学院の指導教員と省察コーディネーターの先生とそれぞれ実施したリフレクションでは、成果と課題の整理や実践研究についての話をすることで、毎回の実習について丁寧に振り返ることができました。次回の目標や今後

の見通しを立てたり、自分の学びを見つめ直したりすることができた貴重な時間でした。

次年度には「教職実践インターンシップⅡ」として、公立学校での実習が始まります。今年度のインターンシップの中で得た多くの学びを活かしながら、実践研究を進めつつ、さらに教師力を磨くことができるように実習に臨みます。

学部卒院生 2 年次のお正月の過ごし方

カリキュラム・授業開発コース

学部卒院生 2 年次 小野彰斗

窓の外では雪が降っている。今年は本当に雪が多くて大変だ。そういえば実習先では、4 年生が自然災害について勉強していたなと思います。今あの子たちはこの雪をどんなふうに見ているのだろうか。

私もいつの間にか大学院 2 年次、つまり修了の年次となった。自身の研究をまとめた実践報告書の提出が課せられている。「これは手ごわいぞ」昨年からそう思っていた。しかし、主担当の阿部昇教授のご指導の下、だいぶ順調にその作成は進んでいた。そのおかげで、学生最後のお正月を研究に追われなくて済んだ。

「学生」というモラトリアムの締めくくりである。その最後の正月だ。どうせなら、自分を精一杯甘やかそうということで、年末年始は、実家に帰り連日連夜好きなことをしていた。読書、漫画、アニメ、ダンス、ずっとサボっていたギター(全然弾けなかった)に取り組んだり、高校から大好きだった地元の蕎麦屋さんに行ったりと本当に充実して

いた。そして夜は家族と酒を飲む。素晴らしい日々だ。しかし、その中でふと思った。こういう生活も、いつか終わりを迎えるのだろうか。私は時々、これが最後だったら…と思うことがある。この人と会えるのはこれが最後だったらと…。幸い杞憂に終わることが多いけれど、このままだと後悔するだろうと思う場合が多い。そういえば、昨年受けた授業の中で、自分の学びの終え方に後悔をした授業があった。素晴らしい学びをしたのだけれど、その学びは僕の手から零れ落ちてしまった。自分の学びを省察し理論と実践を自分の腹に落としていくこと、自分の血肉にしていくことは本当に大事なことだと思う。大学院での実践は僕の一部になっている。自分の感性をもって正面から事実を受け止め、真剣に向き合っていくこと。そして、後悔のないように、今できることをしていきたいと思う。ということで今度実家に帰ったら親に感謝を伝えよう。

「学校危機管理の現状と課題」を受講して

学校マネジメントコース
現職院生 1 年次 近野勇雄

学校には、様々な危機がある。「いじめ」「問題行動」「教職員の不祥事」「教職員のメンタルヘルス」「不審者」「自然災害（地震、津波、火山、土砂）」…。緊急事態発生時のダメージを最小限にすることやダメージを回復するためのマネジメントを具体的に学ぶのがこの講義である。現職院生と学部卒院生の計 20 名と一緒に受講している。学部卒院生との協議や演習は、学校現場をよく知る現職院生であっても見落としがちな視点や新たな視点への気付きにつながっていて、非常に有意義な時間となっている。

この講義で最も印象に残っているのは、過去に全国の学校で起きた実際の事例を題材に、ポジションペーパーを作成したり緊急記者会見のロールプレイを行ったりした「マスコミ対応」を考えるワークショップである。現職院生と学部卒院生の組み合わせで構成されたグループごとに取り組んだのだが、マスコミ側を演じるグループの容赦ない質問に、学校側を演じるグループが圧倒され、

本当に涙を流してしまいそうになるほど辛い時間を体験した。この一連のワークショップを通して、「(学校の立場で) もうこんなことはしたくない。」という強い思いを全員がもつことができ、危機管理の大切さや在り方について深く考える時間となった。「こういったことを知っているかどうかで指導が変わってくる」という教授の言葉の通り、危機管理の最終段階を疑似体験できたことで、事前の対応や初期対応がいかに大切かということを変更して実感することができた。

「児童生徒だけではなく、教職員の安全も守る」という視点で考える大切さを講義全体から学んだ。そのためにも発生頻度や重要度を踏まえながら「学校危機管理マニュアル」を具体的に見直していかなければいけないし、いざというときに迅速に対応できるよう全職員に周知徹底していかなければいけないことを強く感じた。学校現場に戻った際にはすぐ行動に移したいと思う。

実習の振り返りとこれから

カリキュラム・授業開発コース
学部卒院生 2 年次 大関隆貴

早いものでカレンダーもいよいよ残り一枚となり、お湯割りが心に沁みる季節になりました。秋田大学教職大学院では、12 月 7 日に今年度の実習の振り返りが行われ、今年も新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、zoom での実施となりました。原先生の挨拶の後、学部卒院生から「今年度の私の実習紹介」が行われ、1 年、浅野匡平さん、2 年、相馬舜平さんが代表スライドを用いて発表してくれました。実習は 1 年次、附属学校園、2 年次、秋田市の公立小中学校にてそれぞれ行いまし


た。二人のお話を聞いて、現場ならではのエピソードや生徒との交流を紹介してくれ、私の実習とはまた違い、実習とはいえ個性が出るものだと感じました。二人とも生徒、児童のことを考え、学びの深まった実習であったことを zoom の画面越しでさえ、ひしひしと伝わってきました。私自身も半年間の実習を通して、現場の先生方から多くの事を教えて頂きました。また、先生方だけでなく、生徒からも考えさせられ、教わることも何度もありました。生徒個人の特徴、性格を事細かに捉え、

それぞれにあった接し方を心がけることがこれからの課題にもなりました。この経験を活かし、4月から学校現場に出て、一戦力にならなければならぬと痛感し、自分自身を省みることができた有意義な実習紹介の時間になりました。

実習紹介の後は、田仲先生から卒業、進級に向けての今後の予定の確認が行われました。研究題目届の提出、学内での事前発表会、実践研究報告

書の提出、そして2月のフォーラム発表と盛りだくさんですが、見通しを立てて、研究をまとめていきたいです。そして、実践を通して学んだことを形とし、研究の成果に残すことが出来ればと思います。2年次は、先生方のご指導を仰ぎ、集大成として大学院生活を締めくくれるよう抜かりのない日々の生活を過ごしていきたいです。

今後の行事予定一覧

- 
- 2022年 1月 25日(火) 事前発表会(全員)(9:30~16:00)
- 2月 7日(月) 「実践研究報告書」の提出締切(15:00まで)
- 2月 18日(金)・19日(土) 教師力高度化フォーラム
- 3月 14日(月) 審査に合格した「実践研究報告書」の提出締切
- 3月 22日(火) 卒業式